

1. 単元名 つなぎたい山ノ内町の「きれいな水」～源流部や下流部との交流から考えよう～

2. 単元の目標

- ・山ノ内町の水環境の保全について、現在、行政はどのように考えているのかを理解するとともに、実地調査で調べた事実や、そこから考えたことをプレゼンテーションや原稿にまとめることができる。
(知識及び技能)
- ・自分たちの考えや水を取り巻く環境について、交流の相手に伝えるとともに、相手の取組を聞くことで、山ノ内との共通性や相違性に気がつき、相手のよさを取り入れながら、どのようにして水を守っていくかを考えることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・上流部に暮らす一人の住民として、上流部の水を下流部まで安全につなげるという責任に気がつき、その責任をどうすれば果たせるのか、粘り強く考え、考えを行動にうつそうとすることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、学習材として、「夏休み中に報じられたバーベキューのゴミ処理問題のニュース」「町が取り組む川などの水環境を守る取り組みの実際」、「他地域の水環境を守る取り組み」、「他地域の社会教育施設が実際に取り組んでいること」を取り上げる。

実際に報道されたニュースに触れることで、山ノ内町にも起こり得る問題なのではないかと自分の問題としてとらえ始めていこう。また、山ノ内町役場の方にゲストティーチャーとして、教室に来ていただく（もしくは事前にインタビューを行う）。町では10年程度前に下水道の整備がなされてから、「水質の保全」というのは大きな課題とはなっておらず、特に町として何か水環境のために取り組んでいることはないとのことなのだが、下水道整備前の話を聞いたり、現在の様子を聞いたりすることで、役場の人と疑問点などをやり取りし、課題に対し、立場や年齢を超えて共に取り組むことのよさに気がつくだろう。さらに、他地域との交流をすることで、相手に伝えることのよさや難しさについて考えるとともに、コミュニケーションスキルの向上も図る。そして、自分たちの学習で参考にできることなどを考え、行動化を促すという価値をもつ。

(2) 児童観

本学級の児童は、5年時に、地域の方の協力により米作りを行い、収穫した米（コシヒカリ）が雪白舞（地域のブランド米）に認定され、食味コンクールでは金賞を受賞するという経験をしている。その背景として子どもたちは「きれいな水」の存在が大きかったと考えており、「きれいな水」を大切にしたいという意識は高まっている。また、昨年の6年生（現中学校1年生）の学習に触れ、川の水が海の水へとつながり循環しているという事実から、川を守ることは海を守ることという意識も強く持っている。6学年になってからは、信州大学アクア・イノベーション拠点で生活排水

の問題について学んだり、修学旅行では大町市の水の豊かさを学んだり、富山県氷見市の海岸の漂着ゴミを目の当たりにしたりしてきた。環境美化 ESD 委員会のクリーン作戦（ごみ拾い登校）では、中野市との境に当たる地区の川の周りに多くゴミが集まっていることに気がついた。8月にはこれらの事実や自分たちの考えを全校に向けて発信した。

9月には志賀高原源泉付近の水質調査をし、源流部の水と自然の豊かさに触れ、この水を守り、下流部まで届けたいとの思いを強くした。そのような子どもたちが、源流地域と交流することは視野を広げることや、行動化に向けた着想を得ることなどに対して大きな意義をもつと考える。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、「夏休み中に報じられたバーベキューのゴミ処理問題のニュース」を提示する。子どもたちが暮らす山ノ内町でもバーベキューは夜間瀬川沿いを始め様々な場所でおこなわれていることや、子どもたち自身も自宅等で経験があることから、川の状況をつかみやすい話題であり、上流部にくらす者の責任ということにつながる、学習意欲を高めたい。

次に、町役場の下水道係の方との懇談の機会をもつ。現段階で水環境を課題とはとらえていないという町の考えを知ること、子どもたちは、「本当にそれでいいのか」「下水が整備されれば、水環境は守れるのか」「他の地区はどうなのかな」と考えを深めていこう。その中で「未来に向けたまちづくり」という視点で水環境を見るところもできるのではないだろうか。

また、「上流部でくらす他地域との交流」「下流地域との交流」を行うことで、相手に伝えることよさや難しさについて考えていくとともに、コミュニケーションスキルの向上を図りたい。そして、普段の生活からは得られない視点を得て、水環境を中心に視野を広げることにつなげていく。

さらには、町の取組、山ノ内町の水環境の現実、他地域の取組と山ノ内町の現状（人口減、観光と果樹栽培、多雪地域等のこと）を総合的に考えることで、小学生としての自分たちにできることは何かを考え、今後どのような行動をしていくのかその、見通しをもつことが期待できる。

(4) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

・相互性

安全な水は、水循環の中にあるものであり、ゴミの問題、生活排水、豊かな森林、マイクロプラスチック問題など様々な事象と相互に関係していること。

・責任性

安全できれいな水が、すべての人にいきわたるには、上流部で果たすべき責任があることに気がつき行動にうつそうとすること。

・連携性

安全で豊かな水資源を守るために、多くの立場の人が協力して取り組んでいること。

・有限性

世界の人口の増加に対して飲用、農業用で使用される淡水は限られており、なんらかの変革をしなければ水不足が一層深刻になること

○本学習で育てたいESDの資質・能力

・未来を予測して計画を立てる力

現在予測されている世界の人口爆発による深刻な水不足の問題への対応や将来にわたる水環境の保全のために、今を生きる小学生として何ができるのかを考え実行する。

・コミュニケーションを行う力

同じ上流部に住む人や、下流部の地域など他地域の取組についての交流をする。また、町職員にインタビューをし、町ではどのような取組をしているのかを調べる。

・多面的、総合的に考える力

山ノ内の観光と農業を柱とした産業も踏まえ、他地域の取組から山ノ内町で生かせることを話し合ったり、上流の水と下流部での暮らし、海のゴミ問題、海水の淡水化の取組等多くのこととつながりがあることを知ったりして、自分にはどんな行動ができるかを考える。

○本学習で変容を促すESDの価値観

・世代内の公正

上流部のきれいな水を下流部にも届ける必要がある。そのために活動している人がいる。世界には現在も、きれいな水にアクセスできず、困っている人がいる。

・世代間の公正

水質を守らないと、未来には安全な水へのアクセスがより困難になるかもしれない。今、水を安心して使えるのは、過去に暮らした人が水を守ってきたからである。

○達成が期待されるSDGs

- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 14 海の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 山ノ内町の水環境の保全について、現在、行政はどのように考えているのかを理解する。	① 自分たちの考えや水を取り巻く環境について、交流校の相手に伝えようとしている。	① 上流部に暮らす一人の住民として、上流部の水を下流部まで安全につなげるという責任に気がついている。
② 実地調査で調べた事実や、そこから考えたことをプレゼンテーションや原稿にまとめることができる。	② 他地域の取組を聞くことで、山ノ内との共通性や相違性に気がつき、相手のよさを取り入れながら、どのようにして水を守っていくかを考えている。	② どうすればその責任を果たせるのか、粘り強く考え、考えを行動にうつそうとしている。

5. 単元の指導計画（全○時間）

次	○主な学習活動 ・ 子どもの反応	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>○バーベキューのゴミ処理問題についてのニュースを見て感じたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山ノ内でもこういうことはあるかな。 ・人が来てくれるのは嬉しいけれども、ゴミの処理とかはちゃんとしないといやだな。 ・山ノ内はこういう問題とかどんなふうに対策をして、環境を守ろうとしているのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な問題から扱うことで、日常の学習と社会とのつながりを考えられるようにしたり、身近なところで同様の問題はないのかと考えたりするきっかけにする。 	△ア1 (知・技)
2	<p>○山ノ内町の水環境について「やまのうちの自然とくらし」「町総合計画」を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志賀高原の漁協組合の「水を守るには川、川を守るには山」っているのは水循環のことだね。 ・イワナの看板にも「川を汚さないで、石を投げ込まないで」ってあるね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子の内容は子どもにとっては難解なところもあるので、教師が内容を簡略化したものも用意して、町でも水環境を大切に考えていることが分かるようにする。(町総合計画については概要版を用いる) 	△ア1 (知・技)
3	<p>○役場の方のお話から、町の水環境に対する考え方を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質はあまり課題になっていないね。 ・将来もきれいな水は守れるのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役場の方をゲストティーチャーとして招くことで相手意識をもてるようにする。 ・町の考え方の背景を示す。 	△ア2 (知・技) △ウ1 (主体的)
4 5	<p>○他の上流地域（源流地域）の取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上流のきれいな水を守りたいね。 ・そのためにどんなことができるかな。 ・直接話を聞いてみたいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語「私たちにできること」との関連を図って学習をすすめるようにする。 ・同じ上流部についてタブレットを使って調べる時間などを設ける。 	△ア2 (知・技) △イ1 (思判表)
6 本 時 7	<p>○他地域との交流を行う（今回は相手の取組から学ぶ学習を中心に実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川上では宣言も出して、住民の意識を高めているんだね。 ・飯田市（天竜川下流部）では上流部に水の大切さを考えてほしいんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでの交流となるが、子どもたちがまだ慣れていない面があるので、話し方や聞き方は指導する。相手との共通点や相違点に気がつけるようにする。 	△イ1 (思判表) △イ2 (思判表)
7 8	<p>○今後の学習についての見通しをもつ。（特に行動化の面）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今度の町のESD交流会では町の人たちに私たちの考えを伝えたいね。 ・川上村の話を聞いて、山ノ内のよさにも気がついたよ。 ・ゴミ拾いとかだけではなくて、地域の人に知らせていくということがすごく大切なんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・川上村がよくて、山ノ内町がわるいという固定的な見方とならないようにする。 ・今後の町ESD交流会での発信などへの見通しを持って題材を締めくくる。 	△ウ1 (主体的) △ウ2 (主体的)

